

## 【資料】新大分スタンダード

### 「新大分スタンダード」

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する  
ワンランク上の魅力ある授業

#### ゴールを明確にしてブラッシュアップ

- 1 1時間完結型授業
  - ・「めあて」と「振り返り」のある授業
  - ・「課題」と「まとめ」のある授業
- 2 板書の構造化
- 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実



#### 生徒指導の3機能を意識して

- 4 問題解決的な展開の授業  
(単元 あるいは 1単位時間)

「新大分スタンダード」は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加え、「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力の育成を目指すものです。

従来の「大分スタンダード」である

- 1 1時間完結型授業
  - 2 板書の構造化
  - 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実
- については、本時で目指す児童生徒の具体的なイメージを明確

にする、つまり、より具体的な 評価規準を設定し、そこからめあての立て方や板書の在り方、習熟の程度に応じた指導の在り方について、さらに改善することを求めています。

生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業については、児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学びの実現に向けて設定しています。

### 本県が目指す授業改善のポイント1

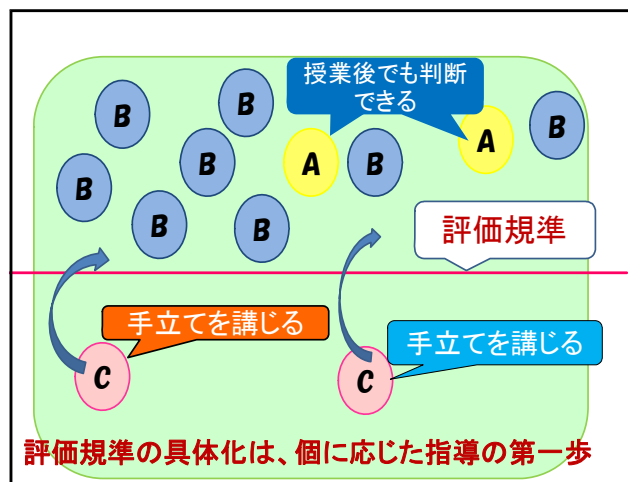
本時のゴール、目指す子どもの具体的な姿から単位時間を見直す? **評価規準の具体化**  
【評価規準が決まると「めあて」も具体的になる】

曲の特徴をとらえ、味わって聴こう

【評価規準】

第4楽章の旋律や音色を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、その特徴である上向の旋律や楽器の音色の明るさをとらえ、根拠をもってふさわしいタイトルをつけている。

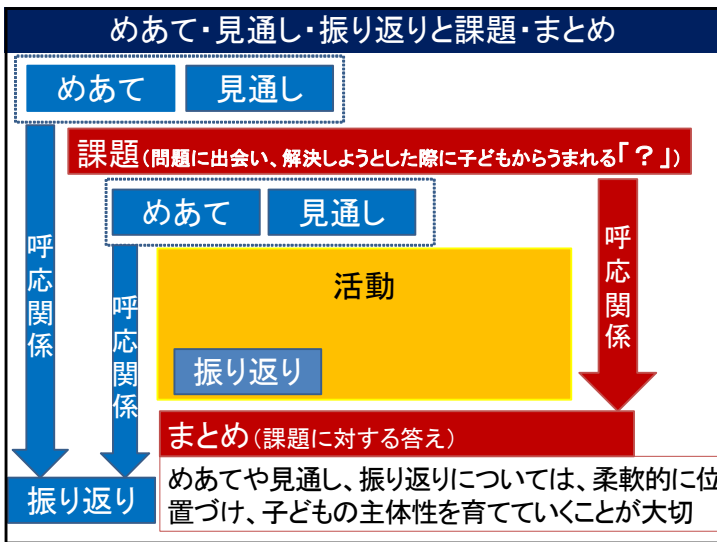
第4楽章を、第1楽章の旋律や楽器の音色と比べながら聴き、根拠をもってふさわしいタイトルをつけよう



「新大分スタンダード」のポイントの一つ目は「評価規準の具体化」です。

本時の評価規準を具体的に設定することで、児童生徒に提示する（あるいは児童生徒と作り上げる）「めあて」も具体的にすることができ、学習の見通しをもたせることができます。

評価規準を児童生徒の具体的な姿で設定すれば、本時の評価も短時間で的確にできるようになります。本時では、「この子はA、この子はB…」と順に全員を評価することが難しい場合があります。評価規準に照らし合わせて「C 努力を要する状況」の児童生徒をまず見出し、できるだけ本時の中で手立てを講じ、「B 概ね満足できる状況」にすることが大切です。



<b>ねらい</b>	<b>教師のもの</b>
職場体験のお礼の手紙を書くことを通して、伝えたい事柄を明確にして文章の構成を工夫する力を高める	
<b>めあて</b>	<b>児童・生徒のもの</b>
感謝の気持ちを伝えるために、構成を工夫して手紙を書こう	
<b>課題</b>	<b>発問等によるめあての具体化</b>
感謝の気持ちを伝えるには、どのような構成にすればよいか？	伝えたい気持ちにふさわしい具体的なエピソードを一つ盛り込んで、手紙の形式に沿って感謝の気持ちを伝えよう
<b>展開</b>	<b>展開</b>
感謝の気持ちが伝わる手紙を数通読ませ、共通点を探る・・・	構成メモを作成し、下書きをする
<b>まとめ</b>	<b>振り返り</b> 自分の学びを振り返る
〇〇な構成が効果的である	
<b>振り返り</b> 自分の学びを振り返る	<b>教師が視点を与える</b>

い等に応じて適切に「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定することです。型にとらわれると授業が硬直化してしまうおそれがあります。児童生徒の思考の流れにそった、本当に力を付けられる展開はどうあればよいのかを考えることが大切です。

「職場体験のお礼の手紙を書く」（中学校国語 B 書くこと 第2学年）授業を例に挙げます。

左の列のように「めあて」→「課題」→「展開」→「まとめ」→「振り返り」という流れが考えられます。一方、右の列のように「めあて」→「展開」→「振り返り」という流れも考えられます。例は「めあて」を発問等によって生徒と作成するようにしましたが、教師が提示することももちろんあります。また、「課題」を先に提示し、課題へのアプローチの仕方を「めあて」として設定することも考えられます。

同じ「ねらい」の授業であっても、本時の評価規準や展開によって「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の内容や設定のタイミングは変わってきます。単元計画を児童生徒が理解できていれば、本時の授業が開始する前から、「めあて」が意識されているので、確認するだけでよい場合もあります。

「めあて」と「課題（問題）」、「振り返り」と「まとめ」はいつも必要なのか、順序はどうあればよいのか、という質問を受けることがあります。

まず「ねらい」は、教師のものなので、児童生徒に提示することはありません。

「めあて」と「課題」の順序にこだわる必要はありません。また、必ずしも両方設定する必要もありません。

「課題（問題）」を設定した場合は、答えを明確にする必要があるため、「まとめ」が必要です。ただし、多様な見方や感じ方を求めるような授業の場合は、「まとめ」よりも「振り返り」を充実させる方が適切な場合があります。

「振り返り」は本時の学びを振り返らせ、自覚させるものなので、基本的には、全ての授業で設定します。教師が本時で最も振り返らせたいことを明確にもって、視点を与えることが大切です。「めあて」の達成状況についての自己評価の場合もありますし、「今日、新しく気づいたこと」「頑張ったと思うこと」「もっとこうしたかったと思うこと」「次の時間に頑張りたいこと」等、様々に設定できます。

大切なことは、型にこだわるのではなく、教科の特性や単元の展開、本時のねら

## 本県が目指す授業改善のポイント2

### 4 問題解決的な展開の授業

- ① 学ぶ意欲を引き出す**課題設定**  
(考えてみたい・やってみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための**情報収集**  
(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の**整理分析**(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことの**まとめ・発信・交流**
- ⑤ 学習の成果を**実感させる単元の振り返り及び評価**

## 本県が目指す授業改善のポイント3

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

### 1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し**自分の考えをもつ**



### 2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(**発表・発信**)・成就感  
個に応じた指導



### 3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を**認め合い**、励まし合い  
**新しい考えを創造**



「新大分スタンダード」のポイントの二つ目は「問題解決的な展開の授業」です。ここでは総則にある「問題解決的」という言葉を使っていますが、「課題解決的」と捉えてもかまいません。教科等や内容によって単元で展開されたり、1単位時間で展開されたりします。また、展開も教科等により若干異なります。ここではオーソドックスな展開を例に挙げています。国語で言えば「単元を貫く言語活動」は、問題解決的な展開です。

「新大分スタンダード」のポイントの三つ目は、生徒指導の三機能を意識するということです。生徒指導の三機能を意識すれば、自ずと児童生徒の主体的な学び、協働的な学びが実現できると考えられます。